

獨協医学会

会 長 寺 野 彰 (獨協医科大学学長)

運 営 委 員 会 委 員

平田 幸一*	奥田 泰久**	秋山 一文	石光 俊彦	植木 敬介
上田 善彦	内田 幸介	大竹 英樹	大平 修二	小端 哲二
佐々木忠昭	篠田 元扶	杉田 憲一	千種 雄一	中元 隆明
野上 謙一	簀持 淳	服部 良之	春名 眞一	深澤 一雄
本田 幹彦				

*委員長 **副委員長

Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

小端 哲二*	石光 俊彦**	上田 善彦	内田 幸介	大竹 英樹
杉田 憲一	千種 雄一	服部 良之	春名 眞一	深澤 一雄
本田 幹彦				

*委員長 **副委員長

編集事務員

鯉沼 行子

編 集 後 記

Dokkyo Journal of Medical Sciences / 獨協医学会雑誌第34巻第1号をお届け致します。本号には英文原著3編, 和文原著3編, 英文症例報告3編, 和文症例報告1編, 学位申請論文7編が掲載されております。まずは発刊にご尽力戴きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて、この冬は本当に暖冬でした。地球規模の環境汚染、温暖化による異常気象でしょうか。昨年末には県下のスキー場も雪不足に悩まされていたことはご承知の通りです。自転車通勤しております私も、朝晩のさし込むような寒さがこの冬には本当に少なかったと実感しています。異常気象だけではなく昨年を振り返りますと、社会面では残念ながら暗い話題が多く、引き続き核兵器の脅威は映画の世界だけではない人類滅亡への危惧さえ予感させます。

医療界におきましても、現場を無視した医療制度の度重なる改革が次々と進められ、医療費抑制に伴う多くの弊害が出ております。医療従事者不足による医療資質の低下、臨床研

修医制度改革に伴うといったよい医療の地域格差で、日本の医療は崩壊し始めています。どうしてわが国は欧米先進6カ国の合計額よりも多い公共事業費を投入しながら、医療のため、医学研究のための資金を投入できないのでしょうか。

私の属する産婦人科でも医師不足が重大です。特に勤務医の過重労働は深刻な問題です。すでに15年以上も前から指摘されていた人口減少問題を、国が放置してきたことにより現在の少子化がすすみ、逆にある意味まだ救われているといった情けない状況です。

医師不足、過重労働の悪循環に陥らないための政治努力が望まれますが、本学のためにまず喫緊で努めなければならないことは臨床研修医の確保です。この獨協医学会雑誌を通じて、本学を国内外に広くアピールすべく、今後とも皆様方のご指導ならびにご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

(深澤一雄)

2007年3月20日印刷

第34巻 第1号

2007年3月25日発行

編集発行人

獨協医学会

寺 野

彰

発 行 所

獨協医学会

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地

獨協医科大学

Tel (0282) 86-1111 (内線2009)

製 作

教 文 堂

〒162-0804 東京都新宿区中里町27

Tel (03) 3260-6136